

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3年 6月 1日

事業所名 放課後等デイサービス クリーニング

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	評価や改善すべき点を特筆した改善内容又は改善目標	
環境・体制整備	1 利用定員が指導員等スペースとの関係で適切である	○		教育内容、活動による部屋割り。(構造)	児童人数、年齢、体格など当日の様子を見ながら階、2階のスペース確保を徹底行う。	
	2 職員の配置数は適切である	○		郊外活動等、基準以上配置、実施。		
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			利用状況により必要性に応じて取り組み対応。	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加している	○		簡易MT実施(毎日)	周知徹底のための、時間確保、その都度対応。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			実施できるかヒアリング、必要に応じての協議、優先度高より改善策検討、実施に繋げる。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○				
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		相談支援・児童発達支援との連携。	連携機関からの情報確認、評価表の配布結果、ヒアリングをもとに改善に繋げる。当社サービス事業所と定期的相互業務評価を定める。	
適切な支援の提供	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		外部のセミナーや研修受講用。内容職員間共有	※新人教育中心に教育マニュアル・事業所運営等、外部環境SWOT分析など月1回研修実施。	
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			学校、他事業所、相談支援事業所等、あらゆる関係機関との情報共有、多角的視点での分析が更に行えるよう連携強化を図る。	
	10 子どもと保護者の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○				
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		毎朝、月間計画をチームで立案	年度別、月度計画策定、毎月次月3日まで通信配布。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		日々の活動内容、様子を見ながら計画立案	コロナ禍、室内での活動が中心になりがちなため、心身負担、解凍への活動、取り組み課題。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			適宜状況判断しながら設定。	
	14 子どもと保護者の状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			個別、集団の時間枠設定、計画立案。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎週簡易MT実施。	確認ではなく、イメージ、理解と様々なイレギュラー時対応での時間確保、役割への責任等、更に職員間で意思を高めていく。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○				
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○				
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○				
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○				
	関係機関や保護者との連携	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加している	○		可能な限り1人ではなく2人(複数人)での参加、多角的視点、意見の必要。	
		21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○			現時点での情報共有に加え、更に連絡調整、時間の確保を図る。より良い関係性の構築、積極的な情報提供。
		22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○			保護者を主に連携。
		23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			
		24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			現時点、該当児利用なし。利用状況によって連携図りながら情報提供実施予定。
		25 児童発達支援センターや発達障害支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		児童発達支援センターへ定期的訪問、連携。	
		26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○			状況判断しながら今後、検討。(現状、コロナ禍もあり難しい)
27 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○			状況判断しながら今後、検討。(現状、コロナ禍もあり難しい)	
28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている		○				
29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレントトレーニング等の支援を行っている		○			案件によってはの提案、対応、想定を見込んだ支援実施に繋げられるよう検討。	
保護者への説明責任等	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○				
	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			懇談、連絡ノート、送迎時等含め適宜対応。	
	32 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		発表会やイベント活動の活用。(コロナ禍他課題)	参加活動の中で連携、活用で対応。(コロナ禍他課題)	
	33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○				
	34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			随時、保護者に伝達。活動内容はHP公開。定期的、また余剰をもった発信体制を心掛ける。	
	35 個人情報に十分注意している	○				
	36 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○				
	37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			近隣挨拶、配慮実施してても、運営支援人員配置、時間確保も含め状況厳しい。また保育スペースで考えると必要は現状ないと思われる。	
	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			マニュアル作成。職員間での情報共有、周知。	
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			児童室に十分なよう分散と定期的実施、時間確保。	
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			研修参加実施、マニュアル作成。	
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			該当児の受け入れをしていないため。	
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づき対応がされている	○			指示のもと保護者からヒアリング情報確認対応。	
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			ヒヤリハットについての事例を作成。情報共有。	